

発達や行動が気になる子どもと 保護者への支援

母子健康協会 第44回シンポジウム

「発達や行動が気になる子どもへの園での対応」

2024.1.31

埼玉学園大学人間学部心理学科

佐々木 美恵

今日の話の主な軸

- 保育者の役割
- 早期支援の促進と難しさ
- 子どもの発達上の課題への気づき
- 園でのかかわりの工夫
- 保護者を支援するために

発達支援をめぐる私の略歴

- 公認心理師, 臨床心理士
- **乳幼児健診** (1歳半健診, 2歳経過相談, 事後フォロー親子教室, 3歳健診)
- **児童相談所** (子ども支援, 療育手帳の更新)
- 心理相談室での**子どもへの療育的サポート**
- **幼稚園訪問**での保育者支援
- (現在) **私立幼稚園スクールカウンセラー**
 - 子ども支援 (観察, 見立て, かかわりや環境調整の工夫検討)
 - 保護者支援 (早期の気づき支援と継続的サポート, 就学に向けての準備)
 - 保育者との協働 (子ども支援・保護者の検討, 保護者と園をつなぐ)
- (現在) **埼玉県A市就学支援委員**

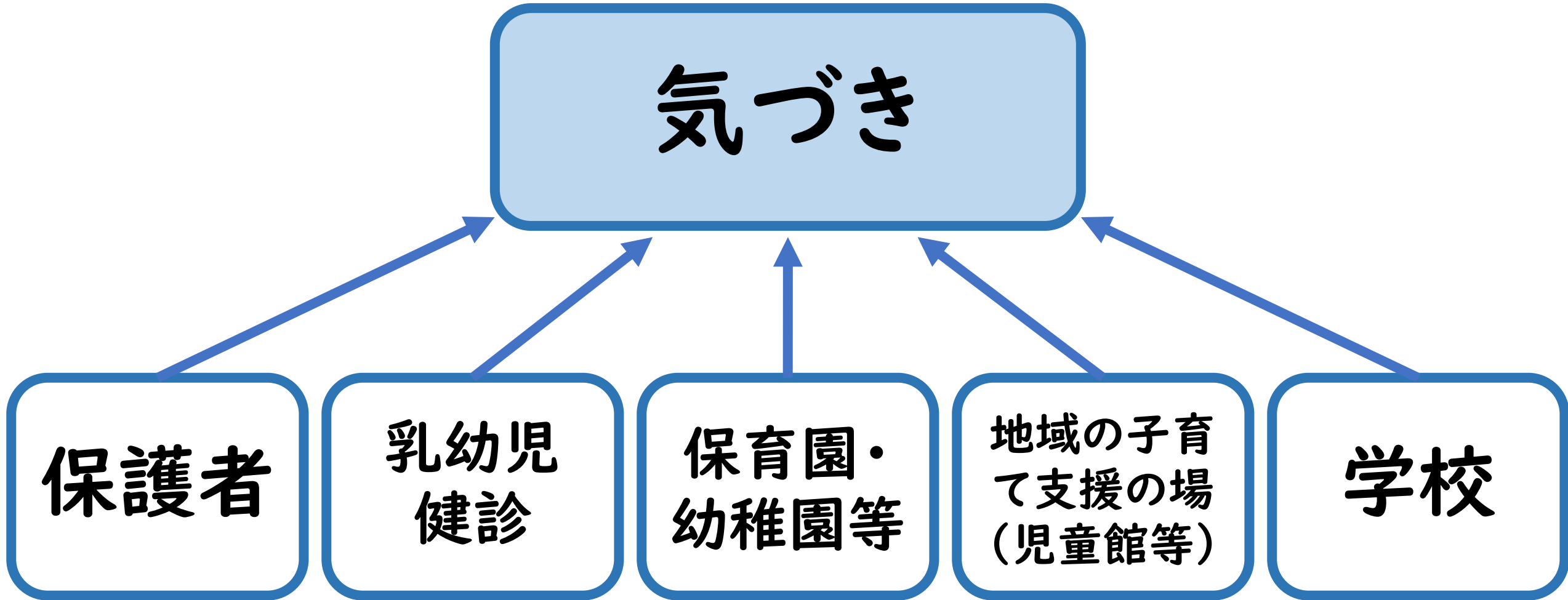
その他に, 通常の心理面接のなかで子どもや保護者への支援を行ってきている。

今日の話の主な軸

・保育者の役割

- ・早期支援の促進と難しさ
- ・子どもの発達上の課題への気づき
- ・園でのかかわりの工夫
- ・保護者を支援するために

発達が気になる子どもへの主な気づきルート



発達が気になる子どもたちの主な気づきルート

気づき

保護者

- ・自ら気づく保護者はけっして多くはない。気づくことへの意識的・無意識的抵抗も。。
- ・しかしながら、なんとなくの違和感を内心では抱いていることも多い。
- ・一方で、インターネットなどで積極的に情報を収集し、自ら相談に至る保護者も以前よりはみられるようになっている。

発達が気になる子どもたちの主な気づきルート

気づき

乳幼児
健診

- すべての子どもに対する網羅的スクリーニング
- 行政とつながり、継続的なフォローへとつながる有効な機会
- ただし、乳幼児健診ではキャッチされない子どもが一定数いることも実際である。

発達が気になる子どもたちの主な気づきルート

気づき

- ・日常の姿に基づく支援者による気づき
- ・保護者に気づきを伝え、共有する作業を行う必要がある。
- ・保護者の思いに寄り添い、日常的にサポートを続ける。

保育園・幼稚園等

地域の子育て支援の場
(児童館等)

学校

早期支援の重要性

発達上の課題をもつ子どもをよりよく支援するためには、
なるべく未就学段階の早期に気づき、支援につなげることが重要

- ・子ども自身の育ちのサポート 大きくつまずく前の未然の支援
 - より早くから適応や自立を支えることができる。
 - それによって、二次的な心理的問題の緩和につながる。
- ・保護者を早くからサポート
 - 困り感をもつ保護者を早くから支えることができる。
 - 保護者による子ども理解を早くから支え、促すことができる。

早期支援者としての保育者の役割

✓ 子どもの発達上の課題への気づき

初めて気づき, 保護者に伝える役割

✓ 子どもの育ちの支援

かかわりの工夫, 環境調整, 心の育ちへの配慮

✓ 保護者の支援

不安や困り感への寄り添い, かかわり方の工夫の共有, 子どもの育ちを見つめていく伴走者

✓ 就学に向けての支援と橋渡し

不安や迷いへの寄り添い, 現実的な情報提供, 育ちのまとめと小学校への橋渡し

今日の話の主な軸

・保育者の役割

・**早期支援の促進と難しさ**

・子どもの発達上の課題への気づき

・園でのかかわりの工夫

・保護者を支援するために

早期支援・早期療育の促進と広がり

- **2012年, 児童福祉法改正**
 - 障害のある未就学児を対象とした一元的な福祉サービスとして, 個別あるいは集団療育を行う児童発達支援が位置づけられた。
- **児童発達支援を担う児童発達支援センターや児童発達支援事業所の展開と充実化**
 - 事業所数の増加とともに地域での療育の受け皿は広がってきている。

児童発達支援の利用児童数の増加

令和元年度の児童発達支援の
利用児童数は、平成26年度比
で約3.3倍

(障害児通所支援の在り方に関する検
討会, 2021)

右肩上がりの増加を
示している。



未就学段階での潜在的な支援ニーズ

- ・令和元年度には5歳児の3.7%が障害児通所サービスを利用

(障害児通所支援の在り方に関する検討会, 2021)

- ・小学校・中学校で通常の学級に在籍する児童生徒のうち,
「学習面又は行動面で著しい困難を示す」子どもの割合は8.8%

(文部科学省, 2022)

顕在化していない支援ニーズがある可能性の指摘

(障害児通所支援の在り方に関する検討会, 2021)

発達上の課題をもっているものの、**未就学段階で適切な支援に至っていない子どもたちの存在**が少なからず考えられる。

保護者に気づきを伝えることの困難

保育士を対象とした調査で、

気になる子の発生割合は10.8%

➡そのうち39.5%の保護者に発達上の課題の伝達

(佐藤・田口・山口・大森, 2019)

6割程度の保護者との間で課題の伝達と共有が
なされていないこととなる。

保護者に気づきを伝えることの難しさが
その一因になっている？

伝達後の保護者の反応への不安

- 受け入れられなさ
- 怒りなどのネガティブな感情反応
- 関係の悪化
- 保護者への問題伝達の困難性が保育者のバーンアウトと関連 (木曾, 2016)

気になる子や保護者への支援を行う自信

➡ 保育者による 保護者への発達上の課題の伝達

[促進]

(佐藤ほか, 2019)

今日の話の主な軸

- ・保育者の役割
- ・早期支援の促進と難しさ
- ・子どもの発達上の課題への気づき**
- ・園でのかかわりの工夫
- ・保護者を支援するために

気づきの観点

身体・運動面

ことば

情緒面

行動面

人とのかかわり

集団場面

あそび

身体・運動面

- 歩き始めがゆっくり,あるいは早い
- 手先の不器用さ:着脱,箸づかい,制作,運筆
- からだ全体を使った動きの苦手さ:なわとび,ケンケン,
動きの不器用さ
- 姿勢維持の苦手さ:だらーんとしてしまう,横になってしまう
体幹の弱さ,注意集中の苦手さ,場面理解の苦手さ

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

ことば

- 始語や語彙の増え方がゆっくり
- 言われた言葉を繰り返して言う, オウム返し
- 言葉遣いの独特さ: 聞いた言葉をそのまま用いている, 好きなフレーズの繰り返し, 自然な抑揚が乏しい
- 独り言の多さ: 思ったことを口にしている, 見聞きしたもののへの反応, 他者視線をもちにくい, 心の整理
- 多弁: キャッチボールが難しく一方通行になりやすい, 思ったことを

(参考) 口にしている

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

情緒面

- **感情の不安定さ**：対処できない・思うようにいかない状況でわーっ
と混乱を示す，切り替えが困難
- **感情表出の激しさ**：爆発したように泣いたり怒ったりする
- **喜怒哀楽の感情のメリハリが見えにくい**：
ぼんやりした感じ，平板な表情（にこにこしていることも），
共有できる自然な情緒の流れが見えにくい

（参考）

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

行動面 I

- 立ち歩き, 飛び出しなどじっとしていることが苦手

エンジンが継続稼働, 刺激への反応しやすさ

- 新しい場面の苦手さ
- 予定の急な変更の苦手さ
- 特定のことへのこだわり:

情報に柔軟に対処すること

(情報⇒記憶から対応を検討⇒対応)
が苦手・・・見通しがもてない事態になる

好きなもの(色, キャラクター, 服, 関心があるものなど),

決まったルール(登園の道など), 極端な偏食

決まったパターンのなかで安定

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

行動面 II

- お片づけや登園時・降園時の**支度の苦手さ**

次に何をするかを考えて、一つずつ実行に移すのが**苦手**

- **特定の動きや行動**を繰り返す：

手をパタパタ、頭を打ちつけるなど

感覚そのものが目的；**自己刺激**

- **感覚の過敏さ・鈍感さ**：

感覚過敏（聴覚，触覚，視覚），

感覚鈍麻（痛み，暑さ・寒さなど）

感覚をめぐる
特有のあり方

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

人とのかかわり I

- 目の合いづらさ
 - かかわりの持続しにくさ：
手をつないだと思ったら振り払う，他の興味・関心に移ってしまう
 - 会話のキャッチボールの難しさ：
一方的におしゃべりをする，お返事が返ってこない，聞いていないように見えるなど
- 人への情緒的関心が十分ではない
・・通じ合う感じをもちにくい
- 注意集中や衝動的なあり方の問題も
相手の気持ちへの共感性や想像性，
情緒的交流への関心をもちにくい

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

人とのかかわり Ⅱ

- **手や行動の出やすさ:**

思うようにいかないときに叩いたり噛んだりしてしまうなど

衝動的な対応, 言葉で十分に伝えられない,
相手の気持ちを感じることの難しさ

- **ちょうどよい距離感のわかりにくさ:**

通常よりも近い身体的距離

相手の気持ちを感じとることの難しさ,
情緒的交流ではなく身体的部位への関心

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

集団場面 I

- お集まりで皆と一緒に保育者に関心を向けることの難しさ
- 一斉活動に皆と一緒に取り組むことの難しさ
- 他のお友達と別の行動をしていることがある

- ・他のお友達が注意や関心を向けていることに一緒に注意を向けて共有することの難しさ（共同注意の問題）
- ・注意集中の維持の難しさ

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

集団場面 Ⅱ

- 全員に向けてお話ししたことが理解できていないことが多い
 - ・ 共同注意の問題
 - ・ 注意集中の維持の難しさ
- 集団に入ることが苦手
- 集団から一人離れた行動をとりやすい
 - ・ 集団の雑然とした刺激が苦手
 - ・ 他者への情緒的関心のもちにくさ

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

あそび

- **一人遊びの多さ**
 - ・他者と同じ楽しみを共有することの少なさ
 - ・他者との情緒的やりとりへの関心の少なさ
- **同年齢のお友達と遊ぶことの苦手さ**
 - 言語的やりとりや遊びの水準などが合いにくい
- **特定の遊びを好む**
 - その子個人の限定的な興味・関心のあり方
- **遊びが次から次へと移りやすい**
 - 注意の移ろいやすさ

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

今日の話の主な軸

- ・保育者の役割
- ・早期支援の促進と難しさ
- ・子どもの発達上の課題への気づき
- ・園でのかかわりの工夫**
- ・保護者を支援するために

絵や写真などの視覚的な補助を用いて示す

子どもの**理解と行動のしやすさ**が格段に高まる。

注意をそこに引き寄せることもできる

- 例)
- スケジュール
 - いますること
 - 物の置き場所や位置
 - 言葉だけでなくジェスチャーでも伝える
 - 左右や前後のマーク

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

具体的に簡潔なことばで伝える

OK 具体的に簡潔, そのままの意味で十分に伝わることば

NG あいまいであったり, ニュアンスを理解してもらうことが

必要な伝え方 言葉はそのままの意味で理解されやすいため

- 例)
- ・「そこにお片付けしてね」⇒「青い箱の中に入れてね」
 - ・「ちょっと待っていてね」
⇒「先生が戻ってくるまで待っていてね」
 - ・「後で遊ぼうね」⇒「おやつを食べたら遊ぼうね」

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

気持ちを落ち着ける場所を作る

感情が高ぶったときや、不安や不快になったときのクールダウンの場所（なるべく刺激の少ない場所）を作る。

段ボールやパーティションで区切った一角でも可

ただし・・・

- ・落ち着いたら、そこから出てくる一時的避難所として活用する。
- ・保育者と子どもで共有できるようなネーミングをすると、なおよい。例) ほっとる一む, おやすみたいむ

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

望ましい行動への積極的応答

望ましい行動（≡増えてほしい行動）に対しては、積極的に応答する。

- ・ほめるなどのポジティブな応答
- ・行動の直後にすぐさま返すことがベター

例) ・言葉での応答:

「がんばったね」「すごい!」「ありがとう」

「よく我慢できたね!」

・言葉以外での応答:

笑顔でうなづく, 拍手, ガッツポーズ, OKマーク

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

(応用) 望ましくない行動を減らすための積極的応答

減ってほしい行動(いわゆる問題行動)以外の望ましい行動に積極的に応答することによって、間接的に問題行動を減らしていくアプローチもある。

例) (問題行動) お友達を叩いてしまう

(対応) 叩くような出来事が起こる前に、

「今日はお友達と仲良くできていて、みんなうれしいね!」
と積極的に伝える。

※叩かないでいること以外の行動に積極的に応答する。

問題を子どもの外に取り出して共有する

問題（かんしゃく、イライラ、手が出る、一番になりたい!など）を子どもの外に取り出す。 絵カードや描いた絵を用いると、なおよいかも

—たとえば、怒りんぼちゃん、パチンくん、いちばんくんなど、名前をつけて子どもと共有する。 子ども自身を否定しないかわり

例) Aちゃんのなかに“怒りんぼちゃん”がいて、たまに「こんにちは」って出てくるよね。そうすると、Aちゃんもお友だちも、みんながにこにこできなくなるよね。

「怒りんぼちゃんが落ち着きますように」

「どうしたら怒りんぼちゃんがにこにこしていただけるかな」

子どもの自信や安心感を育てる I

- **できる体験を繰り返し積み重ねる**
 - ➡ **取り組む課題, 活動のレベル, 量**などの見極めも重要
 - 「できた!」→「きっとできる!」→「もっとやってみたい!」
- **強み(できること, 得意なこと)に着目する**
- **その子どものよいところが他のお友達に伝わるように働きかける**
 - ・ **意識しないと抜けやすいかわり**
 - ・ **子どもの自己肯定感をしっかり支えることを積極的に意識する**

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

子どもの自信や安心感を育てる Ⅱ

- やさしく、穏やかな声のトーンを意識する

- ・ 高すぎず、低すぎず
- ・ 子どもに不安を感じさせないための重要な要素

- 否定的な言葉ではなく、肯定的な言葉で伝える

例) ~しちゃダメ!~しないで! ➡ ~しようね。~するといいね。

- ・ 意識的な言い換え。一呼吸おいて言葉を発する。
- ・ すぐには難しい場合があるが、普段から練習する気持ちで

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

見通しを伝える

見通しがもてることで、子どもは**安定**しやすい。

視覚的の手がかり（**絵や図、写真など**）も積極的に用いて、**前もって**先のことを伝えていく。

子どもの**情報取り入れと対処の難しさ**を周囲が十分に理解する

- 例)
- ・今日の流れ
 - ・明日の予定
 - ・予定の変更
 - ・新しく体験すること

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

子どもとのやりとりの芽を育てて広げる

子どもの姿やリズムにチューニングするようにかかわり、やりとりを育てていく。

言葉を育てる
かかわりとしても
有効

- 例)
- ・子どもと同じ行動や言葉で映し返す
➡ 呼応する他者の存在への気づき、
自分のしていることへの気づき
 - ・子どもや先生ご自身のしていることや気持ちを言葉にして伝える
➡ 「～していたのいいね」「今～って思ったのね」

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

目標行動までを小さなステップにわけ る

目標行動までを小さなステップにわけて、段階的に成功体験を積み上げる。

最初のステップを達成

➡ほめる・喜ぶ

➡次のステップまで進む

➡(繰り返し)

➡目標行動の達成

ステップのわけ方:

①行動の一番最初から進む

例) ホールでのお集まり

【先生のお膝で過ごす】

②行動の一番最後から戻る

例) お弁当箱の始末

【お弁当箱袋をロッカーに戻す】

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

感覚の敏感さへの積極的な防衛的対応

感覚の敏感さによる不快な感覚に対して、**不快を避ける防衛的な対応**を行う。

- 例)
- ・聴覚過敏⇒イヤーマフ使用
 - ・苦手な感触の衣類⇒着用しない

チクチク, ゴワゴワ

- ・無理強いしない
- ・本人が着れる服を複数用意しておく

(参考)

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

すべての子どもにとって有効

発達上の課題をもつ子どもへの支援は、すべての子どもにとって有効である。

- すべての子どものわかりやすさ, 過ごしやすさを高める。
- 環境設定は, ユニバーサルデザイン(発達上の課題の有無によらず, どの子どもにとってもわかりやすく, 使いやすいデザイン)を考慮するとよい。

グレーゾーンの子どもに対しても, 同じく有効

今日の話の主な軸

- ・保育者の役割
- ・早期支援の促進と難しさ
- ・子どもの発達上の課題への気づき
- ・園でのかかわりの工夫
- ・**保護者を支援するために**

保護者を支援するために

- ・保護者とのかかわりの土台
- ・保護者支援の観点
- ・保護者への伝え方
- ・保育者の心のもち方
- ・就学に向けた支援
- ・保育者を支援する環境を整える
- ・その他のワンポイント

保護者とのかかわりの土台

関係を作ることから

関係を作るとは=支援者としての信頼を得ること



- 人と人との基本的なかかわりがなされていること
- 子どもの姿をよく見ている、と保護者に感じられること
- 支援者のかかわりの内容や考え方が保護者に伝わっていること

「気になる」ではなく「気にかけている」

「気になる」ではなく「気にかけている」

— 基本的な心の構え方として

— 保護者にも「気にかけている」の表現で話す。

気になる

- ・標準範囲からの逸脱のニュアンス
- ・対象化, レッテル貼り
- ・保護者との心の距離を遠くする。

気にかけている

- ・ともにある, 包み込むニュアンス
- ・支援的かかわりとセット
- ・「このような部分を気にかけていて, こんな風に対応してみました。そうしたら・・・」

保護者支援の観点

保護者のサポート状況は？

保護者が得ている、あるいは得られる可能性のあるサポートを考える。

- 夫婦間でのサポート
- 祖父母からのサポート
- ママ友同士の関係性
- 支援者との関係性

一般的には、サポートが多い方が精神的健康は保たれやすい。

家族内での考え方の相違は？

子どもの発達上の課題に対して、家族内で考え方の相違がある場合に、保護者に大きなストレスがかかる。

- 発達上の課題がある × 心配する必要はない
- 療育を受けた方がよい × 必要はない
- 受診した方がよい × 必要はない

夫婦間で相違がある場合に、その影響はとくに大きい。

夫婦間での考え方の相違

多くの場合、**母親の理解の方が先行しやすい**。

—むしろ、**理解することへの抵抗が父親側に生じることもある**。

考えられる要因

- ① **相談の場に来るのは母親単独であることが多く、支援者と母親の進行するテンポに父親が取り残される。**
- ② **支援者と直接話していないがために理解しにくく、抵抗も生じやすい。**
- ③ **父親の方が社会的自立への不安を感じやすい側面があり、子どもの発達上の課題への不安や抵抗が高まりやすい。**

夫婦間での考え方の相違への対応

- 支援者の側でも、目の前にいる母親の思いのみならず、**父親の思いにも意識を向けながら**かかわる。
 - 「夫婦間ではどのように話をされていますか」
- **父親との共有を積極的にサポート**する。
 - 「今日、こんな話をしたということを（父親にも）伝えられそうですか」
 - 「どんな風にお話ししましょうね」
- 支援者と話す場に**父親も積極的に加えていく**。
 - 大事な話をするときには、「**ぜひお二人で**」とこちらからも場を設定するとよい。

保護者とかかわりをもつことが難しいときには

- **保護者を変えようとすることに意識を向けすぎない。**
 - 一人の変容は，“変わりたい”という本人の意思がある場合であっても、少しずつ時間をかけて生じるもの
- **子どもとのかかわりにエネルギーを向ける。**
 - 子どもの伸びや、子どもが変わっていくことによって、**保護者の変容が後押しされる**ことがある。
 - ただし、保護者を超えた立場にならない。**保護者のかかわりをエンパワメント**する気持ちをもつ。

現実に対処する力は？

現実に対処する力とは？

- ・不安やストレスに耐える力
- ・必要な情報を収集する力
- ・情報を整理して理解する力
- ・具体的水準から離れて応用的, 抽象的に考える力
- ・必要な援助を求める力

保護者の姿に応じて、支援者のかかわりを工夫する必要がある。

たとえば保護者の不安が強いときには

なぜ不安が下がらないのか？

問題が解決されないから

- ・面談の場をもつ。
- ・問題を共有し、適切な対応を図る。 など

- ・ここぞというときには、時間をかけてしっかり向き合うことが重要。
- ・そのときに、相手を批判的に思う気持ちがあると、おそらくうまくいかない。保育者のなかのあたたかい共感的な思いが大切。

あるいは、もともとの不安が高いから

- ・対応の枠組みを決めて、不安をおさめていく安定した枠を作る。
- ・連絡帳でやりとりをこんな風にしましょう。
- ・週に一度15分ほどゆっくりお話ししましょう。 など

保護者への伝え方

ポジティブな面も伝える

発達上の課題の伝達に意識が向きすぎると、そのことのみを「問題」として伝えてしまう場合がある。

➡受け入れがたさ

➡支援者への不信感や拒否感

伝達・共有内容

発達の課題

よいところ・育ってきているところ

支援者が子どもの育ち全体を大切に見ていることが伝わりやすい。

特性ではなくその子自身の話をする

発達上の課題について保護者に話す際に、「このようなところがある」と子どものもつ特性を伝えることに意識が傾きすぎてしまうと、保護者は抵抗を抱きやすい。

- 「発達障害かどうかの話をしたいわけではない」
- 「発達障害に当てはめようとしている」

特性も子どもの一部であり、一人の子どもの育ちのなかで見られる姿であることを、支援者側も意識して話すことが重要である。

発達上の問題ではなく適応状況に焦点を当てる

障害特性や知的発達のゆっくりさの話を中心にせず、**実際的な適応上の問題に焦点**を当てて話をする。

- 適応上の問題状況と、その程度の方がより重要
- その際、支援や配慮を積極的にしていくと、その子自身がより過ごしやすく、力をより発揮できると考えている、というニュアンスで伝える。

たとえばDSM-5の知的能力障害／知的発達症の診断基準からは、具体的なIQの数値は削除されている。

- **生活適応上の重症度評価に視点**
- ただし、IQの数値自体を軽視するものではない。

理解と対応をセットにして伝える

理解（「このようなところがあります」）だけを伝えると、**保護者の不安や抵抗感**を生じさせやすい。

—「だからどうすればいいんですか!？」

対応（「このような工夫をしてみました」「こんなかかわりをしていきたいと思っています」）をセットにして伝えることで、**安心感や信頼**につながる。

「Aさんは一人で好きな遊びをしていることが多いです。でも、そばに行ってお話しすると、とても熱心に教えてくれるんですよ。少しずつ人とのかかわりも広げていけたらと思っています」

困っているのは誰か？を考える

“保育者が困っている子どもの様子”として伝えると、保護者は受け入れにくい。

- 本人が困っている、わからなくなっている、助けを求めている様子があり、それを気にかけてこのように対応している、と話すと比較的伝わりやすい。
- 保護者自身の困り感、いらだち、わからなさなどについて、あたたかく問いかけると、保護者の思いが語られることがある。

その際、本見についてよく知っている協力者の立場にあることが保護者に伝わるように意識する。

療育へのつなげ方

子どもの発達の

① **気にかけている点について伝達, 共有したうえで,**

“発達について気にかける”状態になっていることが大前提。
受給者証の発行手続きなど, 保護者の意思がなくては進められない。

② **療育を受けることのメリットについて話す。**

- **ものごとに取り組む力を伸ばす**
- **人とのかかわりを伸ばす**
- **刺激をたくさん受けながら発達全体を底上げするように伸ばしていく など**

療育へのつなげ方：話し方の例

- 「ならいごとに通うような気持ちで利用してもらって大丈夫ですよ」
ただし、けっして“ならいごと”ではなく、子どもの発達支援のために通う場所との意識はそらさないようにする。
- 「必要がなくなったら卒業したらいいと思います。もしそのまま小学校に入ってから必要と思ったら続けたらいいし、途中でもう卒業できるね、となったら卒業したらいいんですよ」
- 「やっぱり必要がなかったね、というのはいいいと思います。むしろ、もっと早く行っておけばよかった、と後から思うことの方がよくないので」
- 「なるべく早くから療育を受けた方が効果は大きいんですよ」

ネガティブな感情は機を逃さずに共有する

- もし可能であれば、**その場で共有**できるとよい。
- **取り扱われないネガティブな感情**は、**思いがけない方向で増幅**したり、**関係の悪化**につながりやすい。

「今日突然このようなお話をして、とても気持ちを動揺させてしまったと思います。もしよろしければ、Aさんにとってよいかかわりや環境を整えていくことを、これからも一緒に考えさせていただければと思っています」

保育者の心のもち方

保護者の体験に視点を置く

保護者の身になって思いをめぐらせて考える。

—子どもの発達上の課題を伝えた際に動揺や不安が高まることはごく自然なことである。

—たとえ強いネガティブな反応（拒絶や怒りなど）が引き起こされたとしても、それは自然な感情反応であることを踏まえておく。

支援者が不安になり、支援者自身の体験に重きを置いてしまうと、理解してもらえなかったと被害的になったり、理解しない保護者だとして他責的（保護者を責める）になったりする。

保育者側の安定感・一貫性を保つ

- 保護者の反応（拒絶や怒りなど）によって、**保育者も当然ながら動揺し、対応する反応**（距離を置く、表情がこわばるなど）が生じやすい。
- 保育者側が**以前と変わらず、穏やかで安定した態度を保つ**ことで、**保護者は意識的、無意識的に安心する。**

▶ それが継続的なかかわりのベースとなる**信頼**につながっていく。

言葉ではなく行動をみることも大切

言葉では受け入れがたさを示していても、その後の行動では療育を検討していたり、情報収集をする姿がみられることもある。

目の前の言葉や様子に目をとられず、保護者の姿全体を見守っていくような視点をもつことが大切

支援者個人の支援力の問題として考えすぎない

対応がうまくいかない場合に、保育者は**個人の力量の問題として考えすぎてしまう**ことがある。

—**無力感や自己否定感、あるいは被害的な感覚を抱くこと**につながりやすい。

誰がどのようにやっても難しい状況はあり、**保育者個人と切り離して問題をとらえる**ことも重要である。

就学に向けた支援

就学までの道筋の理解

就学に向けた教育相談の始まりなど、**地域での就学相談プロセスを理解**しておく。

—必要に応じて、**保護者に情報を伝達**できるようにする。

保育者が**落ち着いて伴走**し、ときに**ガイド**しながら**不安や焦り**などに寄り添うことで、一つひとつ対応を進める保護者を**バックアップ**する。

保護者が考えるプロセスを支援する

就学後の特別支援について、**保護者が考え、判断するプロセスを支援する。**

- **通常級**がよいのか、**支援級**（あるいは**支援学校**）がよいのか。
- 子どもが通う可能性のある**小学校の状況**（規模、**特別支援の状況**など）について、ある程度の情報を得ておくと、保護者の相談に具体的に**対応しやすい。**

考えるプロセスそのものが、保護者にとって、**あらためて子どもの姿を理解し、必要な支援を検討する重要な機会**となる。

最終的には支援のまとめをするイメージで

保育者とのかかわりの期間のなかで理解できたこと、考えられたことについて、保護者との間でまとめを行う。

- ・伸びたこと
- ・まだ課題として残っていること
- ・有効だったかかわりの工夫・環境調整
- ・次のステップ（小学校入学後）のなかで課題として生じそうなことの予測
- ・次のステップでも、引き続き行うとよさそうな工夫・環境調整

保育者を支援する環境を整える

支援の困難に対する職場全体での視点の共有

- **保育者個人の問題として考えすぎない**という視点を**職場全体で共有**することで、個人の安心感や安全感は格段に上がる。
 - **相談のしやすさ**につながる。
- 一人の保育者が対応の問題から心理的問題に至るようなことがあったとしたら、**職場環境全体の問題として考える**ことも必要である。
 - **サポート体制**はどうだったのか。
 - **自分にできる**ことはあったのか。

相談・助言の援助資源を積極的に備える

● 職場内の同職種間での援助

- ・先輩, 管理職など
- ・同年代の仲間

自らの実践について言葉にして伝えることで、意図せずともふりかえりの機会になる。

● 職場内（内外の中間ともいえる）の他の職種による援助

- ・心理士, 嘱託医など

カンファレンスでの支援の振り返りによる、保護者支援への促進的効果も示されている（佐藤ほか, 2019）。

● 職場外からの援助

- ・保健師, 巡回相談員など

● カンファレンス実施による振り返りの機会の保障



第三者的支援者によるサポートの組み込み方

保護者と保育者 + 第三者的支援者

保健師, 巡回相談員, 心理士など

- 保護者の同意を得る際に、**保育者自身が支援を得るため**というニュアンスを含めると、保護者に受け入れられやすい。

「私たちも、どのようなかかわりをするともっといい方向に行くのか、アドバイスをお聞きしたいと思っているので」

療育施設との十分な連携

可能であれば、子どもが通う可能性のある療育施設には**あらかじめ訪問して、見学などを通して療育内容を理解しておく**とよい。

- **お互いに顔のわかる関係性**になっておく。
- **各施設の特徴を理解したうえで、子どもの姿に合わせて紹介できる**ようにしておく。

- ・ 子どもや保護者が得ている支援内容全体をある程度理解したうえで、**自分の担当分**を考えられるようになる。
- ・ **同じ工夫**を行うことで、子どもがより理解し、**過ごしやすくなる**。

行政とのスムーズな連携のために

保護者が発達相談や療育の相談等に行く際の園からの後押しの
一つの方法

➡ 所見書を園として作成し、持参してもらう。

- ・様式 A4一枚で十分
- ・内容 簡潔に子どもの姿をまとめる。
項目ごとにしてもよい。

心理士や園医等がいれば、所見が一筆加わると、なおベター

食事、排せつ、着脱、場面の理解、流れの理解、
一斉活動、遊び、他の子どもとのかかわり、
保育者とのかかわり など

“ほっとする”時間があること

- いわゆる“ほっとする”時間のある職場環境であるかどうか。
- ちょっとした「おしゃべり」ができる環境が、保育者を有形無形に支える。
- 話すことで心のなかの不安や負担感を外に出すことができる。
——見関係のないようなことをおしゃべりするだけでも間接的に心の荷が下りる。

とくに不安を感じやすい若手にとって、なお必要である。

その他のワンポイント

今後の見通しの共有は現実から離れない

子どもの姿に忠実に話す。**現実から離れた話をしない。**

- × “将来的には、同じ年くらいの子どもに追いつくと思います”
- × “療育を受けていけば、きっと（特性が消失するかのよう）
よくなりますよ”

“治る” “なくなる” のような考え方ではなく、
できることを伸ばし、あるいは増やししながら、
その子の**適応を高めていく**という視点を共有する。

“機が熟す”まで待つことも重要

- 支援者が伝えたい、かかわりたいタイミングが**必ずしも保護者にとっての適時とは限らない。**
 - “保護者にとって”，機が早すぎることもある。
- 保護者にとって適時ではない介入は，**準備の整っていない心に土足で踏み入るような乱暴なもの**として体験されることがある。

「しばらく様子を見させてくださいね」という経過観察についての理解を得たうえで，**機を待つことが必要な場合もある。**



ご清聴ありがとうございました

文献

木曾 陽子 (2016). 未診断の発達障害の傾向がある子どもの保育や保護者支援と保育士の心理的負担との関係—バーンアウト尺度を用いた質問紙調査より— 保育学研究, 54, 67-78.

文部科学省 (2022). 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について

(https://www.mext.go.jp/content/20221208-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf)

2023年2月1日取得

佐藤 日菜・田口 敦子・山口 拓洋・大森 純子 (2019). 保育士による発達上「気になる子」の保護者への支援の実態と関連要因の探索—発達上の課題の伝達に着目して— 日本公衆衛生雑誌, 66, 356-369.

文献

障害児通所支援の在り方に関する検討会(2021). 障害児通所支援の在り方に関する検討会報告書 (<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000845350.pdf>)

2023年1月17日取得

健やか親子推進本部 就学前の子どもたちの育ちを支援するために
発達障害をもつ子どもたちの支援 A4リーフ (cfa.go.jp)

2023年12月20日取得